Mukogawa Cosmetic Science Forum

第１回武庫川コスメティックサイエンスフォーラム （Web開催）

武庫女から拓くコスメティックサイエンス

講演要旨集

日時 2021年8月2日（月）～8月7日（土）

主催 武庫川女子大学　薬学部　健康生命薬科学科

第１回武庫川コスメティックサイエンスフォーラム （Web開催）

プログラム

ナビゲーター　平尾哲二（化粧品科学研究室教授）

プロローグ

篠塚 和正（薬学部長）森山 賢治（健康生命薬科学科長）　開会メッセージ

客員教授セミナー

南野 美紀（客員教授）	スキンケア化粧品物語
神田 不二宏（客員教授）	世界に羽ばたく日本の化粧品サイエンス
菅沼 薫（客員教授）	化粧品トレンド予測
谷 都美子（客員教授）	触れるケアと化粧ケアの融合

化粧品科学研究室紹介

平尾 哲二（教授）	研究室紹介　角層は面白い！
山本 明日香（修士１年）	気相下での角層アミノペプチダーゼ活性の性状解析
仁木 洋子（准教授）	化粧品素材の有用性評価
前薗 詩織（学部４年）	Withコロナ生活と化粧品（武庫女学生アンケート調査）

エピローグ

このたびは、武庫川コスメティックサイエンスフォーラムにご参加いただき、ありがとうございます。
各講演のURLをクリックいただき、動画をご視聴ください。
QRコードからもアクセスできます。
開催期間中はご自由に視聴いただけます。録画や複製などはご遠慮ください。

まずはこちらから

プロローグ
https://youtu.be/78aRsAK0O_w

ご挨拶
　平尾 哲二

開会メッセージ
　篠塚 和正
　森山 賢治

最後にこちらも

エピローグ
https://youtu.be/oyg3k0zcm9c

ご挨拶
　平尾 哲二

アンケート
https://forms.gle/KM1zRXgeHQMFUD389

ご質問やコメントなど、
こちらへどうぞ。
ご協力お願いいたします。

客員教授セミナー

スキンケア化粧品物語

南野 美紀

https://youtu.be/7r3rQdcuy0k

明治以降の日本の近代化粧品の発展は、科学技術の進歩と共に進んでいます。使用者の化粧品に対する期待、つまり綺麗になりたいという夢を叶えるべく、多くの研究者が皮膚科学を深め、新しい素材や製剤技術の開発を愚直に行っています。一方、化粧品のイノベーションは、皮膚トラブルや機能性の物足りなさなどの不都合を解決することで起こることが多いことも知られています。そこで今回、スキンケア化粧品を取り上げて、その進化の歴史を紐解くことで現状を理解し、これからのスキンケア化粧品開発の進むべき方向性について議論したいと思います。

化粧品トレンド予測

菅沼 薫

https://youtu.be/YTFDqst_t20

時代が移っても変化しない本質的なものを「不易」といい、時代の変化に合わせて移り動くものを「流行」といいます。「不易流行」を化粧品市場の動きから考察したいと思います。
化粧品市場が拡大した1960年代から今日に至るまでの消費者が求める化粧品コンセプトを見ると、皮膚科学やエビデンスに基づいた効果や機能を強く求める機運と、安心な印象の自然由来のものや心を安らかにするような感性に訴える物語性を求める機運の２つのうねりがあります。前者をFunctionalism（機能主義）という言い方をするならば、もう一方はNaturalism（自然主義）という言い方が出来ます。2000年代は、Naturalism的化粧品が注目されました。今後、化粧品トレンドはどのように変化するのでしょうか。その兆しをお話しできたらと思います。

世界に羽ばたく
日本の化粧品サイエンス

神田 不二宏

https://youtu.be/_0q3cRLyWqY

J-Beautyとして世界で注目を集めている日本の化粧品ですが、その魅力を支えている大きな要因の一つはその卓越した安全性、安定性と有用性を裏付けている高い技術力であると考えられます。毎年世界のどこかで開催される国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)の学術大会にて優秀な発表に与えられる各種賞の日本人による受賞数が他国を圧倒していることがこのことを客観的に証明しています。では何故このように日本の化粧品の技術力は高いのでしょうか？品質に対して厳しい日本の消費者の要求に応えるべく、研究に真摯に取り組みつつ今でも進化を続けている日本の化粧品開発の秘密の一端を皆さまにご紹介したいと思います。

触れるケアと化粧ケアの融合

谷 都美子

https://youtu.be/vVfm58hPYQk

化粧品を使う皮膚は、不思議な力を持っています。普段、何気なく行っているスキンケアやメークの一連の工程は，肌や見た目をキレイにするだけでなく，心のケアや体の元気に通じるものです．それは、皮膚を通して行われる「触れる」という行為が、脳に匹敵する情報処理機能を備えていたり、人の感覚が、触覚、聴覚、視覚の順序で発達し、その逆に退化していくことからも、その存在価値の深さが感じられるものです。気持ち良さを感じる触れ方の法則や効果的な触れ方のポイントについても考えてみたいと思います。

化粧品科学研究室紹介

研究室紹介　角層は面白い！

平尾 哲二

https://youtu.be/0vPbcpR50ug

毎日使っている化粧品、健やかな生活やおしゃれに欠かせません。特に女子学生にとって関心の高い領域であり、化粧品関連の仕事に就きたいと望む女子学生が増えています。武庫女では化粧品学関連講義を開講し健康化粧品探求コースとして教育体制を整備してきました。さらに、2019年4月に化粧品科学研究室が誕生し、２年が経過しました。化粧品の有用性研究や角層生化学に関わる研究をスタートしています。角層は単に死んだ組織ではなく酵素活性などがうまく働くことで、私たちの健やかな肌を作り上げています。武庫女での化粧品の学び、化粧品科学研究室の活動などをご紹介します。

化粧品素材の有用性評価

仁木 洋子

https://youtu.be/_7XznQ-SQDs

化粧品科学研究室では、遺伝子・細胞レベルから、組織、そしてヒトレベルまで幅広い評価系で総合的に化粧品のサイエンスに取り組み、その経験を通じて広い視野をもつ人材の育成を目標としています。現在は、地元兵庫県産植物由来成分の美白効果、アンチエイジング効果などの化粧品有用性評価、３次元皮膚モデルを用いる浸透試験、熱や紫外線による毛髪の酸化ダメージの解析などを、学生と共に精力的に進めています。今回は、その取り組みのアウトラインをご紹介したいと思います。

気相下での角層アミノペプチダーゼ活性の性状解析

山本 明日香

https://youtu.be/O7PN2HTDhUY

テープストリッピング法により採取した角層を用いて、NMF産生の最終段階に関わるアミノペプチダーゼであるBleomycin hydrolase活性の検出を行いました。活性検出には蛍光基質Arg-MCAを用い、温湿度を制御した気相に角層を曝して酵素反応を行いました。角層アミノペプチダーゼ活性は低湿度環境では低下し、ポリオールなど保湿剤塗布により回復しました。本研究を第46回日本香粧品学会で発表しましたので、その発表内容をご紹介します。

Withコロナ生活と化粧品（武庫女学生アンケート調査）

前薗 詩織

https://youtu.be/pPFRW3R0wzg

新型コロナウイルスは私達の生活様式に大きな変化を与えました。生活に欠かせない化粧品もその１つです。化粧品科学研究室では、コロナによる女子大生の「化粧行動と意識の変化」を調べるために、武庫女生を対象にWEBアンケート調査を昨年８月に行い、学部３年生（当時）の３名で解析を行いました。スキンケア、メイク、ヘアケア各々の使用アイテムの変化、マスクによる肌悩みと肌質の関連など興味深い結果を得ることができましたので、その一部をご紹介し、with コロナ生活に求められる化粧品を考える一助にできればと思います。